

2007年度投稿論文総数26編 [論説12 (和文12), 総説7 (和文7), 短報6 (和文5 欧文1), ノート1 (和文1)] 口絵3 (和文2 欧文1) ※うち16件が電子投稿  
投稿数昨年比 +5 査読中42編  
・紀伊半島特集号は全9件のうち8件が受理。残り1件査読中。  
・地学教育関連の特集号が投稿された

Island arc編集委員会 (担当理事-Wallis, 事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

#### 1. 編集状況

2007年16巻の年間契約ページ数576 (～最大620) p

1号 Pictorial 1編, 特集6編, 一般8編, 訂正1p+白紙, 計210p.

18年度では計画540pに対し537p.

2号 一般7編104p入稿済み。前半4編はOnline Earlyで公開済み。

3号 5月末受理のフィリピン海特集9-10編が入る予定。入稿期限は6月末。

計画1号: 一般8編127p+特集6編79p+口絵3p+白紙=210p

2号: 一般7編104p+Editorial (2)p=(106)p見込み

3号: 一般2編30p+フィリピン海特集9編135p=165p

4号: 一般6編90p+Index等2p=92p 総計573p/契約576p

#### 2. 特集

フィリピン海特集: Guest Editors小原・徳山・石渡・Stern

11編投稿済み, 9編受理を見込む。3号掲載予定。

板谷特集: G E板谷・Sajeev・Wallis

2編投稿済み, 全15編予定。17-1号掲載を見込む。

(坂井特集): GE坂井

全13編, 紙投稿済み。内容確認中, 特集をやめ一般論文とする見込み。

久田特集: GE久田・Yumul

全28編予定。分量が非常に大きいため扱いを検討中。

#### 3. オンライン投稿

07年3ヶ月で新規投稿22編 (特集12編, 一般10編) あり好調を維持。

システムへの登録: 総数340名。著者173名+査読者98名+編集関係者68名 (うちGuest Editor 6名)。

#### 4. Publisher's Report 2006の説明 (抜粋)

・2006年におけるIARの大きな変化は, カラーデザインの変更とpictorial sectionの導入。

・2005年のインパクトファクターは1.167と過去最高になった。2006年の値は現在計算中。pseudo impact factorは計算できるので, おって連絡する。

・オンラインでの論文のダウンロード数は24,372件であり, 前年比52%の増加となった。アクセスの上位10位はすべて14-4, 15-1のオフィオライト特集。

5. 今後の科研費出版助成金について検討した。

・平成19年度より直接出版費の見積書が必要となる。競争入札を行い, 最も安く入札した業者の金額をもとに交付申請書を作成しなければならない。

・IARの場合, 2009年以降は競争入札を行わないと科研費が交付されない可能性がある。この問題については今後継続して検討する。

#### 6. Island Arc賞について

・Island Arc賞の賞状はブラックウェル社が作成することを確認。

#### 7. その他

・BlackwellとWileyは今年2月に正式に合併した。日本のオフィスは初夏頃に移転する。

8. アイランドアーク誌への二重投稿について, 経過報告があった。

Island arc連絡調整委員会 (委員長-会田, 担当理事-Wallis)

・アイランドアーク科研費平成18年度の実績報告書 (総ページ560p.) を提出した。

・平成19年度科研費申請が採択された (370万円)。

企画出版委員会 (担当理事-高橋)

・箱根リーフレットの作成に当たり, 神奈川県博に協力依頼状を出した。

#### 5. その他

地質災害委員会 (担当理事-天野)

・地球惑星連合大会の「能登半島地震」緊急セッションの共同提案者として参加することとした。

【以下, 評議員会の下委員会】

名誉会員推薦委員会 (伊藤副会長)

・名誉会員候補者として1名の推薦があった。選考のうえ, 評議員会に推薦することとした。

各賞選考委員会 (委員長-酒井治孝)

・各賞選考結果を評議員会に諮る。

地質学会賞1名, 国際賞2名, 柵山賞1名, 論文賞2件, 研究奨励賞2名, 学会功労賞1名, 学会表彰1名

法人化実行委員会 (委員長-齊藤靖二)

・齊藤委員長からの報告 (→木村会長)

現状は, 旧法による文科省の認可手続きを待ちが続いている。文科省に対し, 今後の見通しの問い合わせなども行っているが, 返事がない。

平成20年から実施される新法律では, 一般社団法人及び一般財団法人となった後, 公益性についての審査を受けて, 公益性が認められれば, 税制の優遇などがある公益社団法人及び公益財団法人となることができる。旧法で法人となっている団体の公益性が自動的に認められるの

かどうかについては今のところ不明とのことであるが, 今後の審査を考慮すると, 地質学会としては旧法での認可に期待したい。

法務委員会 (担当理事: 委員長-上砂)

Webサイトの投稿規程案について内容を検討し, 修正案を作成した。

#### ○審議事項

1. 2007年度事業計画案文について検討し, 評議員会に提出することとした。

2. 札幌大会, 見学旅行下見費用の負担について準備委員会からの申し出を検討した。

現状では, 案内者の申し出による下見代の全額を負担できるという状況にはなく, 案内者が遠方の場合, 下見の回数や人手なども工夫していただくことしたい。

札幌大会においては, 予算上は30万円を計上し, この範囲内で各案内者にたいし応分の支給をしていただく。どのように支給するかについては, 見学旅行担当者に任せる。

3. 事務局の勤続表彰制度の具体的な表彰内容, 勤続年数に応じて褒賞およびリフレッシュ休暇などについて, 総務部会案を了承した。

4. 評議員会議事進行の確認をした。

## 2006年度 第4回 定例評議員会議事録

2007年5月2日

日本地質学会 議長 三宅 康幸

副議長 新井田清信

日時: 2007年4月7日 (土)

13:00-17:45

場所: 北とびあ 901会議室 (東京都北区王子1-1, 京浜東北線 王子駅下車1分)

出席者: 木村 学会長 伊藤谷生副会長 佃 栄吉副会長

(評議員27名) <留任> 阿部国広 安間 恵 磯崎行雄 永広昌之 納谷友規 新妻 信明 保柳康一 三宅康幸 矢島道子 山路 敦 脇田浩二

<新任> 浅野俊雄 足立勝治 安藤寿男 石垣 忍 石渡 明 井龍康文 岡 孝雄 小山内康人 紺谷吉弘 酒井治孝 徐 垣 新井田清信 針金由美子 松岡 篤 松田 博貴 丸山茂徳

(理事10名) 渡部芳夫 天野一男 上砂正一 大友幸子 宮下純夫 公文富士夫 倉本真一

中山俊雄 久田健一郎 向山 栄

(事務局) 橋辺菊恵

欠席者 評議員 (委任状7名): 荒戸裕之 国安 稔 柴 正博 田近 淳 井内美郎 加藤 進 渡辺真人

欠席者 評議員 (委任状なし6名): 会田信

行 板谷徹丸 田崎和江 巽 好幸 楡井久 横山俊治

理事(4名): 狩野謙一 高橋正樹 Simon WALLIS 増田富士雄

\* 成立員数(21/40)に対し, 出席27名, 委任状7名で, 評議員会は成立。

\* はじめに, 岡 孝雄, 針金由美子 両評議員を書記に選出。

## 報告事項

### I 理事会報告

#### 1 運営財政部会

##### 1) 総務委員会

庶務関係(担当理事-上砂)

・ 学術会議地球惑星科学委員会(主催), IYPEシンポジウム「国際地球惑星年2007-2009」(国際惑星地球年開催宣言式典)(1月22日14時-16時, 東京大学理学部1号館, 小柴ホール)を協賛した。

・ 日本原子力学会より, 原子力総合シンポジウム2007開催(5月末予定)の共催依頼(主催学術会議), を了承した。運営委員として高橋正樹氏を推薦。

・ GUPI(地質情報活用機構)のGEOFORUM-3「地域観光資源とビジター産業」(2月3日11時, 東洋大学)を協賛した。

・ 日本粘土学会, 第51回粘土科学討論会(2007年9月12-14日)の共催を承諾した。

・ UNESCO科学委員会から, IGCP日本委員会のメンバーに対し, 委員推薦依頼があり, 地質学会として募集の呼びかけ, 仲谷英夫会員, 井内美郎会員の応募があり国内委員会へ推薦した。

・ 以下のアンケートに応えた。

1) 「わが国における海洋研究船のあり方に関する提言案」(文部科学省宛, 同シンポジウムワークショップ世話人作成)に対するアンケートは, 会長が関係の方々とは意見交換を行い, 慎重に検討した結果, 全面的に賛成との回答をした。

2) 学術会議: 学協会の機能強化方策検討のための学術団体調査に回答

3) 全地連より, 土木地質図の新名称についてのアンケートに, 応用地質部会の横田部会長の意見を参考に回答した。地質学会としては, 候補名称のうち「工学地質図」を支持した。

・ 平成19年度の共同研究の継続契約を産業技術総合研究所と交わした。

研究課題: 地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究  
研究費: ¥1,299,500

関連学会連合(担当理事-天野)

地質科学関連学協会連合

地質学会も参加する「地質の日」発起委員会により地質の日は5月10日(ライマンによる北海道地質図発行日)に制定される。

地理学関連学会連合

地理学関連学会連合は解散が決定, 改変後の学会連合と地質学会のかかわり方について意見交換があった。

地球惑星科学連合(木村会長, 久田連絡委員)

・ 国際地学オリンピック小委員会報告(久田委員)

日本は第三回から国際地学オリンピックに参加の方針。科学技術振興財団が事務局となる。

会員関係(担当理事-中山)

前回から今回までの入退会ほか

#### ①入会

正会員(7): 高須佳奈, 楢原京子, 加藤千茶子, 友澤 悟, Kim Ji Young, 洪景鵬, 佐藤 明

院生割引(1): 西川裕輔, 芦萱 亮, 佐々木陵多, 高橋健一, 入江美沙

準会員(1): 坂 啓惟, 宮田真也, 半田直人, 小久保晋一

#### ②退会者 98名

06/11月-12月退会6名: 田中館宏橋, 松田あゆり, 村田竹外, 三浦三郎, 長野正寛, 遠藤満久

3月末退会(92名〔正88, 正割4〕): 青木和子, 秋元 梓, 熱田雅信, 安彦宏人, 新井 徹, 飯泉克典, 家永浩平, 石橋澄, 市川暢子, 出澤 茂, 伊藤通玄, 伊藤通義, 井上多津男, 井上友博, 井上陽一, 入佐純治, 岩田圭示, 岩根定晴, 鶴飼宏明, 内瀬戸信彦, 圓藤弘典, 尾芦裕子, 小野洋, 小幡真弓, 加藤信一, 加藤法彦, 金山憲勇, 河原大輔, 菊地喜雄, 木田昌宏, 木谷清一, 栗谷将晴, 黒川明, 黒川将, 坂井栄信, 佐藤幸二, 島内哲哉, 島木健哉, 小豆政直, 杉山茂夫, 鈴木隆介, 鈴木雅博, 鈴木正哉, 瀬谷正巳, 添田雄二, 曾根大貴, 曾武川博道, 高階義大, 高貫潤一, 高橋興世, 武居由之, 竹村貴人, 田中真治, 田中尚, 田中芳則, 千葉努, 円谷博明, 寺平宏, 陶野郁雄, 富田克敏, 能田成, 橋本義之, 早坂祥三, 林 衛, 原 衛, 針生真也, 広渡文利, 藤本善航, 松隈明彦, 松下芳浩, 宮下治, 山田晃, 山田正春, 山中寿朗, 山本和幸, 渡部晟, 向井正二郎, 友杉貴茂, 金子弘二, 佐藤 浩, 久島紘樹, 藤江 力, 野池耕平, 竹林慶謹, 岩井隆昌, 栢本尚之, 橋本富美江, 吉田春香, 伊藤彰彦, 富樫幸雄, 山崎憲一, 甕川敏暢

③逝去(4): 名誉会員; 秀 敬(1月6日), 島田昱郎(11月28日), 赤嶺秀雄(3月20日), 多井義郎(3月28日)

④除籍者: 99名(03年からの会費滞納者, 07/3月末にて除籍)

#### ⑤会員の動静(2007年3月31日現在)

	賛助会員	名誉会員	正会員(内院士割引)	学生会員	合計
2007.3.31	34	74	4294(287)	45	4447
2006.11.30	34	75	4484(290)	42	4635
増・減	0	-1	-190(-3)	+3	-188

⑥今年度末で退会予定の会員88名にたいし, 簡単なアンケートを実施した。

・ 退会理由(回答39名, 複数回答可): 高齢10名, 定年退職9名, 所属学会整理18名, 会費が負担18名, 転職・専門変更など7名, 興味・意欲喪失6名, その他(病気など)5名。

#### ⑦会員減少の歯止めと増加策の対策

以下の対策が検討されていると報告された。

・ 若手にたいしては就職支援イベントの実施(札幌大会)

・ 中高齢層にたいしては定年後の活躍の場(地質ガイドなど)の提供, 地質学雑誌に社会人向けのページ(ニュース・総説など)や教師特集号を取上げる。

・ その他, 会費自動引落の奨励のための割引制度や, 入会時の推薦者をなくすなど検討する。

会計関係(会計委員長-佐々木和彦, 担当理事-向山)

・ 国際地質科学連合の理事会(IUGS-EC, 07年1月16日~20日, 奈良市)開催にあたり, 開催経費の援助要請があり, 20万円を支出した。

・ 旧構造地質研究会残余財産(370万円)の移管を受けた。来年度以降構造地質部会の引当金とする。

・ 札幌大会参加登録費等について, 高知大会での反省を踏まえて検討した。

・ 06年度決算案および07年度予算案の検討

#### 2) 広報委員会(担当理事-大友)

・ ニュース誌写真の投稿規定およびホームページへの投稿規定(案)を策定

・ メールマガジン準備開始: 6月初旬~7月下旬に試験運用, 札幌大会の9月には本格運用を開始したい。

News誌編集小委員会(担当理事, 委員長-大友)

インターネット運営小委員会(委員長-坂口有人, 担当理事-大友)

・ ホームページのリニューアル進行中。5/20総会においてデザインを公開可能に。9月からは新HPへの切り替え開始。会員の個人情報を書き込み・変更・登録も検討。

#### 2 学術研究部会

##### 1) 行事委員会(担当理事-久田)

・ 札幌大会について

シンポジウム13件, セッション26(定番22+トピック4)となった。

今後のスケジュール：予告記事 News誌 5月号（5月末）、発表申し込み締め切り、ランチョン・夜間集会申し込みの締め切りは7月3日とする。

地質学会の開催日初日が北海道マラソンと重なっているため、旅行・宿泊については早めの手配が望まれる。そのためNews誌4月号に関連の情報を予め掲載する予定。近畿日本ツーリストの参加登録申込み、旅行の手配等の窓口（HP）の開始は、News誌5月号の発行に先立ち、5月10日ごろを予定している。

9月9日懇親会後に開く出身大学別同窓会（Alumni）の実施要領が示される。

就職支援プログラムあり。札幌駅コンコースを利用し、出張展示を行うことも検討中。この時期に札幌で開催される一連の地学行事をつなげて、Geo-weekの提案

・2008年、秋田大会の開催日は9月20-22日と決定、新しく発足する鉱物科学会との共同開催については1日を共催日とし、日程の範囲で両学会の並行開催となる。

・2009年は、西日本支部に開催を依頼、岡山大学での開催が決定した旨、西田支部長から連絡があった。鉱物科学会との共同開催を検討する。

## 2) 専門部会連絡委員会（担当理事-天野）

・構造地質部会（部会長-高木秀雄）：3月18日和歌山県田辺市において普及講演会を開催した。また、06年度末に旧構造地質研究会の財産を地質学会に正式に移管した。

## 3) 国際交流委員会（担当理事-公文）

・韓国地質学会（07年9月）への招待、今後の交流の覚書を交わすこととした。  
・タイ地質学会会長（Mr. Araya Nakhant, チュラロンコン大学）からの招待状  
08年の同上大学地質学科の50周年記念シンポジウムへの地質学会会長の出席など、タイ地質学会との連携を目指す。

## 4) 研究委員会

### (1) 南極地質研究委員会（委員長-廣井美邦）

本年11月に出発する第49次観測隊には、小山内康人（九州大学大学院比較社会文化研究院）、馬場社太郎（琉球大学教育学部）、豊島剛志（新潟大学理学部）、中野伸彦（九州大学大学院比較社会文化研究院）、外田智千（極地研）が参加予定。また、同行者として総研大大学院生1名を派遣する予定。調査対象地域は東南極セールロンダーネ山地中央部。今回は、航空機を用いて南アフリカのケープタウンから直接調査地にアクセスする計画で、調査期間は2008年2月までの予定。

### (2) 地質環境の長期安定性に関する研究委員

会（委員長-吉田英一）

札幌大会でシンポジウムを「地質環境の将来予測と地層処分:予測科学としての地質学」開催。

## 3 編集出版部会

1) 地質学雑誌編集委員会（担当理事、編集委員長-狩野、副委員長-久田、宮下：企画部会担当）

今月の編集状況（4月5日現在）。

113-3：論説3・短報1・口絵1（50p発行済み）

113-4：論説3（約40p）（校正中）

113-5：論説4（入稿準備中）

2007年度投稿論文総数26編〔論説12（和文12）、総説7（和文7）、短報6（和文5欧文1）、ノート1（和文1）〕口絵3（和文2欧文1）※うち16件が電子投稿

投稿数昨年比 +5 査読中42編

・紀伊半島特集号は全9件のうち8件が受理。残り1件査読中。

・地学教育関連の特集号が投稿された

## 2) 企画出版委員会（担当理事-高橋）

・箱根火山リーフレットは、神奈川県立博物館、温泉地学研究所の会員の協力得て、子供向けおよび一般向けとも入稿間近。

## 3) Island Arc連絡調整委員会（委員長-会田信行）

・アイランドアーク科研費平成18年度の実績報告書（総ページ560p.）を提出した。

・平成19年度科研費申請が採択された（370万円）。

## 4) Island Arc編集委員会（編集事務局長-竹内圭史・角替敏昭、担当理事-WALLIS）

・二重投稿問題の経過報告がなされ、注意喚起の文章をニュース誌に掲載する予定。

### 1. 編集状況

2007年16巻の年間契約ページ数576（～最大620）p

1号 Pictorial 1編、特集6編、一般8編、訂正1p+白紙、計210p。

18年度では計画540pに対し537p。

2号 一般7編104p入稿済み。前半4編はOnline Earlyで公開済み。

3号 5月末受理のフィリピン海特集9-10編が入る予定。入稿期限は6月末。

年間計画 1号：一般8編127p+特集6編79p+口絵3p+白紙=210p

2号：一般7編104p+Editorial (2)p = (106)p見込み

3号：一般2編30p+フィリピン海特集9編135p=165p

4号：一般6編90p+Index等2p=92p 総計573p/契約576p

### 2. 特集

フィリピン海特集：Guest Editors小

原・徳山・石渡・Stern

11編投稿済み、9編受理を見込む。3号掲載予定。

坂谷特集：GE坂谷・Sajeev・Wallis

2編投稿済み、全15編予定。17-1号掲載を見込む。

（坂井特集）：GE坂井

全13編、紙投稿済み。内容確認中、特集をやめ一般論文とする見込み。

久田特集：GE久田・Yumul

全28編予定。分量が非常に大きいため扱いを検討中。

## 3. オンライン投稿

07年3ヶ月で新規投稿22編（特集12編、一般10編）あり好調を維持。

システムへの登録：総数340名。著者173名+査読者98名+編集関係者68名（うちGuest Editor 6名）。

## 4. Publisher's Report 2006の説明（抜粋）

・2006年におけるIARの大きな変化は、カバーデザインの変更とpictorial sectionの導入。

・2005年のインパクトファクターは1.167と過去最高になった。2006年の値は現在計算中。

pseudo impact factorは計算できるので、おって連絡する。

・オンラインでの論文のダウンロード数は24、372件であり、前年比52%の増加となった。アクセスの上位10位はすべて14-4、15-1のオフィオライト特集。

## 5. 今後の科研費出版助成金について検討した。

・平成19年度より直接出版費の見積書が必要となる。競争入札を行い、最も安く入札した業者の金額をもとに交付申請書を作成しなければならない。

・IARの場合、2009年以降は競争入札を行わないと科研費が交付されない可能性がある。この問題については今後継続して検討する。

## 6. Island Arc賞について

・Island Arc賞の賞状はブラックウェル社が作成することを確認。

## 7. その他

・BlackwellとWileyは今年2月に正式に合併した。日本のオフィスは初夏頃に移転する。

・Island Arc編集委員長（石渡・Wallis）は2000年の本誌9巻3号特集「カザフスタン北部コクチュエフ岩体の岩石テクトニクス的特徴」に関連して、同特集の掲載論文の多くは本誌の中で最も被引用数が多く（ISIによる2005年中の引用データ）、学界に大きなインパクトを与えたと判断され、編集責任者（J. G. Liouおよび坂野昇平氏）へ謝辞を送付した。

## 4 普及教育事業部会

### 1) 地学教育委員会（委員長-阿部国広）

① 地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」（委員 阿部国広）

2) 生涯教育委員会 (委員長・柴 正博, 担当理事・高橋)

・地質学会札幌大会で「地質学の社会教育・普及へ研究者に求められるもの」というシンポジウムを開催する。内容は、研究者が所属する団体を通して、また研究者個人で、地質学の社会教育・普及に関してできることや求められているものは何か?を、いくつかの事例を紹介していただき、議論したいと考えている。

3) 地質基準委員会 (委員長・新妻信明)

第二次地質基準策定委員会は、専門部会から推薦された三田村宗樹・三宅康幸委員を加え、前回の評議員会に提案した「第二次地質基準 (案)」について検討を加え、「第二次地質基準 (最終案)」を策定した。同委員会は「第二次地質基準説明書編集委員会」として「第二次地質基準説明書」の執筆・編集・出版に当たる。第一回説明書編集委員会は5月9日に地質学会事務局で開催する。説明書では、最新の地質学の成果を紹介するとともに地質体の形成過程と土木地質の性質の対応を系統的に紹介する計画である。安間 了委員を中心として進められている「海洋底調査の基本—海の地質基準」出版計画は、掘削船「ちきゅう」の定常運航開始前の刊行を目標に編集を進めている。原稿執筆は90%程度終了し、編集作業が進行しており、4月末日を目処に共立出版社への入稿準備をしている。

5) その他 (理事会関係の委員会等の報告)

1) 地質災害委員会 (担当理事・天野)

・1月30日に発生した奈良県上北山村、国道169号線における岩石崩落事故に対し、応用地質学会関西支部と合同調査団を組織、2月6日に現地調査を行った。報告記事はHPに掲載済み、News誌4月号にも掲載予定。

調査団長: 千木良雅弘氏 (応用地質学会関西支部長)、地質学会: 近畿支部、三田村宗樹氏 (地質災害委員)、天野 (地質災害委員長)、応用地質学会: 藤田崇氏ほか3名、土木学会: 3名の参加、

・緊急災害時における報道関係からの質問等に対しては、今後、支部単位で窓口担当者 (複数) を指名し、対応に備える。

・地球惑星科学連合大会で「能登半島地震」の緊急セッションを行う共同提案者となった。

金沢・富山・信州大学などの調査チームが、情報をアップロードした。

2) ジオパーク設立推進委員会 (委員長・佃 栄吉)

・各地での動きと推進委員会の活動状況について報告された。

・産総研の地質ニュースで「ジオパーク特集号」の発行が予定されている。

・関連学会・省庁による「日本ジオパーク委員会」の設立を実現し、プレス・自治

体・博物館・学会への広報を強化する予定。

II 各種委員会報告 (評議員会関係)

1. 各賞選考委員会 (委員長・酒井治孝)

・地質学会賞、国際賞、小澤賞、棚山賞については、以下の選考検討委員会を設置し選考を諮問した。同委員会委員長は互選により木村会長となった。

委員氏名: 木村 学, 齋藤靖二, 加々美寛雄, 鈴木和博, 嶋本利彦, 平 朝彦, 小川勇二郎, 巽 好幸, 渡部芳夫, 狩野謙一, 石渡 明, WALLIS Simon, 小畑正明, 松本 良

・アイランドアーク賞については、同編集委員会に選考を諮問した (平朝彦委員長)。

・07年度各賞の受賞候補を以下のように選出した。

日本地質学会賞 (1件)

磯崎行雄「日本列島地体構造の基本骨格の解明とP-T境界大量絶滅事件の研究」

日本地質学会国際賞 (2件)

Allan White「レスタイトモデルによるIタイプ・Sタイプ花崗岩のタイプ分けとその成因」

David H. Green「マグマ生因論および地球リソスフェアの進化に関する実験岩石学・地球化学的研究」

棚山雅則賞 (1件)

青矢陸月「収束プレート境界のテクトニクス」

アイランドアーク賞 (1件)

Graciano P. Yumul Jr., Carla B. Dimalanta, Rodolfo A. Tamayo Jr. and Rene C. Maury: Collision, subduction and accretion events in the Philippines: A synthesis. Island Arc, no.12, 77-91.

日本地質学会研究奨励賞 (2件)

金丸龍夫 (共著者 高橋正樹): 帯磁率異方性からみた丹沢トータル岩体の貫入・定置機構. 地質学雑誌, 第111巻第8号, 458-475.

小林祐哉 (共著者 大塚 勉): 美濃帯左門岳ユニットの堆積相と堆積環境. 地質学雑誌, 第112巻第5号, 331-348.

日本地質学会論文賞 (2件)

小原泰彦: Mantle process beneath Philippine Sea back-arc spreading ridges: A synthesis of peridotite petrology and tectonics. Island Arc, 15, 119-129.

植田勇人・宮下純夫: Tectonic accretion of a subducted intraoceanic remnant arc in Cretaceous Hokkaido, Japan, and implications for evolution of the Pacific northwest. The Island Arc, 14, 582-598.

日本地質学会功労賞 (1件)

戸間替修一氏 (北海道立地質研究

所): 35年にわたる薄片等試料作成による地域地質研究への貢献  
学会表彰 (1件)

北中康文氏 (写真家): 写真集「日本の滝」①東日本661滝, ②西日本767滝 (山と渓谷社) の出版。

小藤賞: 推薦がなく、検討の結果、該当なし。

小澤賞: 選考対象はあったが、検討の結果、該当なし。

2. 名誉会員推薦委員会 (担当理事・委員長・伊藤副会長)

・名誉会員候補者として、小坂丈子会員を選出した。

・前年度評議員会で承認された候補者の小西健二会員をあわせて総会に推荐する。

3. 法人化実行委員会 (委員長・齋藤靖二)

・法人化申請書類は文部科学省に提出済で待機中であるとの現状報告がなされた。

4. 法務委員会・倫理規定策定委員会 (委員長・担当理事・上砂)

・理事会からの諮問により、日本地質学会プライバシーポリシー (案) を策定。

・HPの投稿規程案について、内容の検討をした。

5. オンライン化委員会 (委員長・齋藤 眞)

・札幌大会の発表申込みおよび参加登録申込みシステムについて検討し、行事委員会に答申した。発表申し込みはJ-stageを利用することとし、事前の参加登録をはじめ各種の申し込み等については、費用払い込みの便宜と事務局の負担軽減などから近畿日本ツーリストに委託し、発表申し込みとは窓口を分けることにした。

III 選挙管理委員会 (委員長・関 陽児)

・2007年度の代議員選挙、理事選挙、評議員選挙を実施した。選挙結果についてはHP、News誌にて報告した。

IV その他

1. 学術会議関係 (木村会長)

・分科会等の活動などについて報告された。

2. IUGSおよびIYPE関係 (担当理事・佃副会長)

・国際地質科学連合の理事会 (IUGS-EC) を07年1月16日 (火)~20日 (土) 奈良市において開催。

・2007年1月22日、学術会議地球惑星科学委員会主催で、シンポジウム「国際惑星地球年2007-2009」国際地球惑星年開催宣言式典を開催した。

3. IGCP専門委員会 (田崎委員)

V 理事会審議事項 (主なもの) 報告

1. 札幌大会について

・理事会内に推進委員会を設置: 4役+行事委員長+会計担当理事+地学教育担当+地質情報展担当者+本部事務局

- ・就職支援プログラムの設置，全地連に協力要請，9月8日（午後）北大にて開催。参加会社：地質学会賛助会員各社，全地連関係各社（資料のみの参加も可）。プログラム：全地連からの業界の説明紹介，JABEE委員会からJABEEの説明紹介，参加各社による数分間のプレゼン（合計1時間程度）および各社ごとにカウンターで個別説明。
- ・Geo-weekの提案  
北海道支部より，ジオフェスティバル（道立理科教育センターほか；9月2日予定）に始まり全地連「技術e-フォーラム」（情報地質学会・応用地質学会連係で札幌開催），産総研「地質情報展」（9月7-9日），地質学会大会（9月9-11日）が続く期間を「Geo-week」とする提案（共同宣伝・広報の実務は北海道支部担当）があり。
- ・Alumni（同窓会）の準備委員会よりの開催案については，概ね了承。  
9月9日20：00-21：00（懇親会終了後）に実施する。
- ・見学旅行案内書の冊子体の発行について，準備委員会から強い要望があり，検討の結果，今年度は高知大会並みの白黒版で500部を印刷することとした。準備委員会にも販売努力を要請し，昨年同様，事前予約販売とする。
- ・参加登録費等年会個人負担金額の決定
- ・発表申込みおよび参加登録申込みシステムについての承認
- 2. 国際交流，特に韓国地質学会，タイ対地質学会について
- 3. 科研費審査委員候補者データベース登録者の推薦について，下記のとおり推薦した。  
天野一男，WALLIS Simon，大友幸子，狩野謙一，倉本真一，佃 栄吉，久田健一郎，藤本光一郎，渡部芳夫（以上9名）
- 4. 各賞選考委員会の下の選考検討委員会委員として小畑正明会員，松本 良会員を推薦した。
- 5. 2006年度決算（案）について（→評議事項）
- 6. 2007年度事業方針（案），予算案の検討（→評議事項）
- 7. 地質学会プライバシーポリシー（案）の最終答申を承認。（→評議事項）
- 8. ニュース誌写真の投稿規程（案）およびホームページへの投稿規定（案）の承認  
広報委員会案について基本的な部分を了承した。内容の詳細は，法務委員会に検討を依頼。
- 9. ホームページのリニューアルについて
  - ・インターネット委員会での検討結果について，了承した。
  - ・札幌大会前に，新しいシステムに完全移行する。
  - ・会員の情報の登録，修正や閲覧を，会員がHPを通じて行うということについて

- は，総務部会（会員，会計）で早急に検討する
- ・支部・部会のURLを地質学会のドメインに統一するよう，支部，部会に依頼して了解を得る
- 10. 地質学雑誌の刊行改善について（→評議事項）  
地質学雑誌への投稿者の減少，原稿不足の現状から，発行を隔月刊にすることなどについて議論した。現在の刊行の現状と議論の内容を，ニュース誌で会員に周知させる必要がある。
- 11. 法人化の現状について
- 12. 総会議案の検討
- 12. 評議員会審議事項について
- 13. 新評議員会の開催について

#### 評議事項

1. 2006年度決算（案）および2007年度予算（案）  
2006年度の決算では，会費収入が予定より大幅に減少したこと，今年度事業持越しの経費を次年度事業準備金として積み立てたこと，2007年度の収支予算では，会員の減少傾向などから収入の伸びが期待できないので，やむを得ず引当金積立を削るなどした措置等について議論のあったのち，決算案と予算案は承認された。
2. 各賞選考結果について  
提案のあった各賞候補を一括して承認した。  
国際賞受賞者による講演会，シンポジウムなど特別プログラムの実施について行事委員会に要望があった。  
なお，酒井委員長より，各賞選考に関する以下の提言と要望が報告された。
  - 1) 賞への推薦数の増加のため各賞の推薦方式の見直し，抜本的改善が必要。
  - 2) 審査期間がほぼ一ヶ月であるのは短いので期日の見直しが必要。
  - 3) 各賞の対象と定義，その評価基準の明確化をはかる。
  - 4) 国際賞の定義，評価基準の見直しをはかる。
 以上の提案に関して，選考期間や選考基準の見直し，推薦件数を増やす工夫などの議論があり，今後各賞選考委員会の議論を経て評議委員会で検討することとなった。
3. 名誉会員候補者の推薦  
推薦委員会より提案された小坂丈予会員を，名誉会員候補者として総会に推薦することを承認した。
4. 日本地質学会プライバシーポリシー
  - ・示された原案では，どの条項までがプライバシーポリシーの内容を示しているのかわかりにくくなっているため，第5条の「プライバシーポリシーの変更について」

でうたっている変更の対象が不明確になっている。この点を書き改めることを前提として承認した。

#### 5. 地質学雑誌の出版について

地質学雑誌編集委員会の宮下企画部会長から，日本語論文投稿件数の減少，1論文当たりのページ数現象などの傾向が一貫して継続していることなど，地質学雑誌発行の隔月化にせざるをえない実態がリアルに説明された。それに対して，「原稿をとってくる努力が必要」，「会員減少の問題が発生する」「大学以外の民間企業・中高齢層などに役に立つことを載せているか」，「専門部会毎にレビュー的なものを含めて特集を組む」，「ニュース誌を地質学雑誌から分離する事情が今はないはずで統合すればよい」，「文化として日本語で書ける媒体をもっていることは重要」「どの会員もよりよい情報を享受することが必要である」「査読中の論文が著者から返ってこないことが問題」などの意見が出された。木村会長からは「地質学雑誌に限らず，日本の地質学（学会）全体に関わるトータルな情報をどう手に入れ，どう扱うか問題であり，会員の各年齢層での会員動向を踏まえて，戦略として地質学雑誌・ニュース誌をどう取り扱うかが重要である」との考えが示された。全体として，当学会の今後の鍵を握る重要な事項であるので，今後も議論を継続することとなった。

#### 6. その他

- 1) 高等学校における地学教育に関する現状について（提案者井龍評議員）  
・高校理科教育における地学の軽視がはなはだしい。また理科総合A，Bの履修状態についても問題が多い。これらに関する地質学会としての対応について問題提起がなされた。白熱した議論があったのち，今後実態内容を共有しながら議論を継続することとなった。

以上

#### <追加報告>

07年度～08年度 日本地質学会監事の委嘱について  
4月13日に理事会から表記についてメールで報告があった。

\*今年度の選出の監事1名は選挙ではなく，外部の専門家に会長が委嘱する（選挙細則第4条2項）こととし，前年度に引き続き下記の山本氏に委嘱することになった。選挙で選ばれた役員とともに5月の総会に諮る。

2007年度～2008年度 監事  
司法書士 山本正司氏  
（神奈川県相模原市  
山本司法書士事務所）